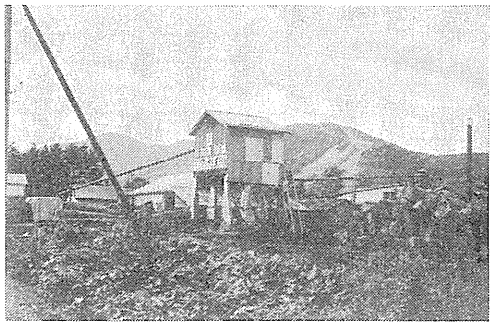
主な事業実績　年間　原木挽立量　二万一〇〇〇立方メートル
製品生産量　一万四〇〇〇立方メートル
国有林、道有林造林造材請負　一億四〇〇〇万円
自家造材実行　一億五〇〇〇万円
道道除雪請負　四〇〇万円
機械設備　自動送材車付帯鋸盤二台　卓上式自動帯鋸盤四台　横切一台
石田式リングバーカー一台　チッパー機一台　車両一一台
従業員　三〇名　外に臨時四〇名

望月木工場　昭和三〇年二月一日、望月重興が製函材の製材を目的に個人で、幾寅に工場を創業した。原木は幾寅営林署から供給を受け、その他民間材を使用、製品の販路は、富良野、稚内、釧路方面であった。その後、着実に経営を伸ばし、望月木工場と改称した。昭和六〇年の現況は、次のとおりである。



望月木工場

営業品目、製造品目等　広葉樹製材、木取家具材
チップ、バーク生産　人工乾燥、素材販売
年間生産能力　総挽立　七〇〇〇立方メートル
機械設備　製材機械、木取加工機械、バーク機械
乾燥設備　各一式
敷地、建物等　敷地二六六二坪　製材工場　乾燥場
木取加工場、事務所外　従業員一七名
販路は全道一円　本州、四国、九州方面

福岡木材工業株式会社　昭和三四年三月一日に福岡吉助が落合に創業した。当時、従業員一五名程度で角材、板、枕木などを製材したが、その後の製材業界の情勢により、四二年七月三一日解散した。

その他の木工場等　橘木材商会は昭和三三年五月一日、幾寅市街に橘一二が操業した工場であり、製函材を製材した。原木は個人から買入れ、製品は富良野町、札幌市、増毛町や広尾町などへ供給していたが、四六年に廃業した。

杉山鹿越木工場は昭和二七年八月に、鹿越で杉山金市が操業した。原木は民有林が主体で、製品は東鹿越鉱山に供給し、その後製函材を生産したが、三六年に廃業した。

駒沢製材工場は昭和三三年二月、駒沢貞雄が下金山で操業を開始し、シナ丸太を原料して下駄用材を専門に製造した。製品は広島へ出荷していたが三六年ごろ閉鎖した。

野口木工場は国策パルプ専属の請負業者として、野口木材部が金山で造材事業を始めたのは昭和二一年で、金山、幾寅両営林署担当区内で年間二万石の造材であった。翌二二年から移動式製材機をもって鹿越で製材業を始めた。二七年には幾寅で四二吋手押機を装置し、二八年には四八吋の本機を増設し基盤の確立を期し